# 双方向マルチ大画面制御技術

河原敏成*
山川隆司*
佐々木啓祐*

**要　旨**

通信分野におけるネットワーク監視，警察分野における通信指令システムといった監視用途で広く採用されている三菱電機開発の双方向マルチ大画面システムの概要を紹介する。

双方向マルチ大画面システムは，超高解像度マルチ大画面上に複数の監視情報ウィンドウ画面を任意に配置し，複数のオペレータが連携しながら協調して監視業務を行う操作環境を提供できる。

また，監視業務に必要な複数の顧客側業務ネットワークと接続し，一元的に監視ができるシステムを構築することにより，監視ルームの効率的利用と省スペース化を実現することができる。

上記の特長を実現するため，双方向マルチ大画面システムでは，双方向ウィンドウ表示機能，映像ウィンドウ表示機能，地図情報ウィンドウ表示機能，ウィンドウ転送機能，リモートマルチカーソル機能，テロップ機能といった様々な機能を搭載している。

このシステムを採用することにより，マルチ大画面を使用した監視業務において，大画面を単に“見る大画面”から，大画面を活用して統合監視ができる“操作する大画面”へと業務形態を大きく革新させることが可能である。

今後，その他の分野の監視用途においても広く採用されるよう双方向マルチ大画面システムの機能拡張を行い，顧客満足度の高いシステム製品開発に取り組んでいく。

（注１）DLP方式とは，DMD素子を用いたプロジェクションシステムの方式で，DLP™，DMD™は，米国Texas Instruments, Inc. の登録商標である。

**エヌ・ティ・ティ ドコモ東海納め　SXGA70V型　24面（3段8列）マルチビジョン**

2002年5月運用開始のエヌ・ティ・ティ ドコモ東海納めのDLP™方式(注1)マルチプロジェクタを用いた双方向マルチ大画面システムの運用シーンを示す。単画面解像度がSXGA（1,280×1,024），全体の画面解像度が10,240ドット×3,072ドットの巨大なスクリーン上に複数の監視画面を並べ，統合監視ができる協調作業環境を実現している。

*京都製作所